

上沼克徳先生退職記念号に寄せて

経済学部長 玉井 義浩

上沼克徳先生は、2021年3月31日をもって本学を定年退職され、同年4月1日付けで本学名誉教授となりました。長年のご貢献に対する深謝と惜別の思いを込め本論文集を捧げます。

先生は早稲田大学商学部を卒業後、同大学院商学研究科に進学、修士・博士の両課程を経て1983年に本学経済学部に着任以来、38年にわたり本学での研究と教育に携わってこられました。

先生の専門はマーケティング理論および学説史であり、2003年に学位論文を基に『マーケティング学の生誕へ向けて』（同文館出版）を上梓され、2020年には『学としてのマーケティング』（同文館出版）を上梓されるなど、先生は一貫して、マーケティング研究の学としての確立という課題に取り組んで来られました。また、マーケティング史研究会において、先生は長年中心的な役割を果たしておられます。先生が取り組んで来られた課題、先駆的な研究は、大胆な発想とともに先行研究への深い造詣があつてはじめて可能となると思われまふ。人伝てにうかがつたところによれば、先生はカール・ポパーの哲学にも大層通暁しておられるとのことで、そうした先生の深い教養が、これまでのパイオニア的なご研究を支える土台であつたのではないかと、誠に僭越ながら拝察しております。

研究面での指導的役割に加え、先生は教育においてもその卓越した指導力を遺憾無く發揮して来られました。博士学位取得者2名をはじめ、10名を超える修士課程修了者、1000名を超える学部ゼミ卒業生を輩出、ゼミナール指導では「神奈川大学産学チャレンジプログラム」で5回の優秀賞と3回の最優秀賞を受賞するなど、その実績は本学部・大学院の規模に鑑み質・量とも他に類例を見ないものと思われまふ。さらに本学全体への貢献として、先生がFYS制度の導入と教材作成において指導的な役割を果たされたことは、全学的によく知られているところです。

研究、教育に加え、先生は学長補佐、経済学研究科委員長、教学評議員などの要職を務めてこられ、大学行政面でも本学の発展に多大の貢献をされました。

更に、先生のご活躍のフィールドは広く学外にも及んでおり、大学基準協会大学評価専門委員、文部科学省教科用図書検定委員・同調査審議会委員を務められるなど、我が国の教育界全体の発展にも多大の貢献をされました。

本号には先生ご自身の玉稿も投稿されており、そこに示された先生の今も尽きぬ旺盛な研究意欲、探究心は、我々現役の教員への大いなる励ましでもあります。今後ともどうぞご健勝にて益々活躍されますことを、祈念申し上げます。